

閉会の辞

日本語教育センター副センター長
文学部准教授
長谷川 修一 氏



○栗田 先生方、ありがとうございました。

それでは、これより閉会のご挨拶に移ります。閉会のご挨拶は日本語教育センター副センター長、文学部准教授、長谷川修一先生より頂戴いたします。長谷川先生、よろしく願いいたします。

○長谷川 きょうは日本語教育におけるプログラム評価ということで、さまざまなお話を伺わせていただきました。私自身は日本語教育を専門とする者ではございませんが、組織の中、それから日本という国が今置かれている状況、あるいは世界全体が置かれている状況の中で、この日本語教育におけるプログラム評価というものが、また非常に流動的な状況に置かれていることを学ばせていただきました。

その中で、立教大学が際立っていくためには、やはり理念というものをしっかりと理解した上で、例えば日本語教育センターが、大学という体の一部分であるとしたならば、大学がどういう方向に向かっていくかということを理解した上でやっていかないと、そのプログラム評価というものも、どういう方向に作用していくかというのはなかなか評価できないのではないかなというふうに思いました。

きょうはお忙しい中、貴重な時間をいただきまして、お話しくださった講演者の方々、またコメンテーターの方々、そしてお集まりくださった会場の皆さん、どうもありがとうございました。これで私のご挨拶とさせていただきます。(拍手)

○栗田 長谷川先生、ありがとうございました。

以上をもちまして本日のシンポジウムを終了させていただきます。本日は長時間にわたりご清聴いただきまして、まことにありがとうございました。先ほどお

配りしておりますアンケートですが、入り口付近に係の者がおりますので、お帰りの際にご提出いただけますようお願いいたします。なお、会場は17時25分に閉めることになっております。お手荷物をご確認の上、お忘れ物のないようご注意ください。それ以降のご歓談は、こちらの建物の1階、もしくは2階、中2階のグローバルラウンジをご利用ください。本日はありがとうございました。